

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 事業の開始年月日, 指定年月日, 法人名, 事業所名, 所在地, サービス種別, 定員等, 自己評価作成日, 評価結果, 市町村受理日.

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

Table with 1 column: 基本情報リンク先

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 食事のメニューの内容の充実 (四季折々の食材を使用し、又一人ひとりの好みや要望を職員が聞いて献立をたてる) 2. 口腔ケアに関して: 飲み込みを良くする為に耳下腺運動や嚥下の体操を毎日行い、筋肉を鍛えている。更に週二回の舌清掃も行っている。 3. 毎日入居者全員、特製歌詞カードで午前、午後歌を歌っている。 4. 毎月、多彩なイベントを行っている。時には入居者参加型があり、盛り上がっている。 5. 毎朝10時頃に全員で決められた公園(鶴が丘第一公園)に散歩に行っている。 6. 外出が年6回~8回あり、伊勢丹デパートでの食事会や海鮮料理を食べに真鶴海岸やファミリーレストラン、コンサートに出かけている。 7. 毎月1回、災害時想定火災、地震の避難訓練を入居者全員を巻き込み行っている。 8. 家族の関係者が宿泊を希望した時のために簡易ベットを用意している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 4 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日, 評価機関, 評価決定日.

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

経営は特定非営利活動法人シンフォニーであり、グループホームシンフォニーは平成16年4月に相模原市橋本に開設し、平成18年5月に相模台に移った。このホームの理事長は、グループホーム開設の以前からイベントや福祉関連の事業をする会社を近くの相模台に経営していて、福祉の他に催し事に明るい。立地は小田急相模原駅から歩いて5分の駅前商店街通りに面している。ホームは1ユニット9人の2ユニットで、建物は4階建てで1Fがデイサービス、2Fと3Fが各グループホーム、2ユニットの構成になっている。理念を「人格の尊重、心のこもったケアによる笑顔の暮らし」として、理念全文は、ホームに掲示、パンフレットに記載、研修や会議での唱和により職員に共有されている。ケアマネジメントは日常の支援の中でご本人の意志やご家族からの情報を把握し、心身の状態はアセスメント記録シートに記録し、この記録とユニット会議、全体会議、医師の意見を聞いて、ご利用者のニーズにあった介護計画を作成し、介護やモニタリングを実施している。医療連携体制は、かかりつけ医(内科医)の往診が1ユニット1回/月、ホームとして2回/月、医師、看護師が来ている。専門外の治療は、職員同行で外来診療に行く。1Fのデイサービスには看護師が3人いる。また、嚥下体操、口腔ケアを歯科医の指導で2回/週行っている。ターミナルケアについては、入居時の説明で、看取りは行わない。入浴、食事、歩行、トイレ介助の状況により介護に負担が大きくなった時点で、家族との話し合いをして後の行き先(特養、病院)について責任を持って対応している。災害対策は、消防署の指導、近隣の方の参加による避難訓練を2回/年実施し、ホームの避難訓練を毎月実施している。水、食料(缶詰、パック)の備蓄は3日分としている。スプリンクラー、自動通報装置は設置済みである。暮らしの支援は、屋上に出ると相模平野のパノラマが一望でき、季節によりお茶会、バーベキューなどの催しを行う。毎日、午前に近くの鶴が丘第一公園、麻溝公園等への散歩に行き、午後は買い物に行く。地域との交流・ホームの行事(初詣、花見、夏の遠足、夏祭り、紅葉見学)等、外出の機会は多い。屋内では、リビング・ダイニングには手作りのお雛様・季節に応じた飾り付け、利用者の作品、各行事の写真等が掲示されている。家具の配置も良く、明るさや気温など心地良い環境になっている。食事は季節の食材で四季折々のメニューを味わい、毎日歌を楽しみ、時には参加型のイベントと職員の心のこもった対応により笑顔で明るく過ごしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

Table with 3 columns: 評価項目の領域, 自己評価項目, 外部評価項目.

事業所名	NPO法人グループホームシンフォニー
ユニット名	Aユニット

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、各ユニットの玄関、リビング、事務室に掲示し、またパンフレットやシンフォニーたよりも掲載して、いつでもどこでも目に付くようにしている。職員は入社時に説明を受け、会議、申し送りで唱和し確認している。日々のケアサービスの中でも話し合い、理念の共有に努めている。	理念を「人格の尊重、心のこもったケアによる笑顔の暮らし」として、理念全文は、ホームに掲示され、パンフレット等にも記載されている。会議等で唱和を行い、職員に共有され実践につなげている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や商店街の商栄会に加入し、地域や商店街の行事に出かけている。近隣の幼稚園、小学校、高等学校とも交流している。	自治会や商店街正栄会に加入し、8月の盆踊りなど行事に参加している。その他、幼稚園発表会見学、小学生の来所、高校生のプラスバンド演奏等、地域との交流は多い。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相模原市内の劇場グリーンホールでのダンシングチームの催しでは、入居者の方々が舞台上がり一緒にダンスするなどして参加している。利用者の理美容についてはボランティアの方が来て髪をカットしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月ごとに開催しており、ホームの活動状況、自己評価・外部評価についても報告している。懸案事項についても報告し、出席委員から助言をもらったり、方針や要望について話し合ったり、運営に反映するよう努めている。	H21年度の開催は4回行っており、運営推進会議のメンバーは自治会長、地域包括センター、民生委員、ご家族、ご利用者、そしてホーム関係（管理者、主任、事務）で構成されている。会議では、報告、懸案事項等、要望についてを話し合い、運営に反映に生かしている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当窓口と情報交換やホームの現状について話をしている。運営方法について相談を受けたり、担当者がホームを訪れて活動状況を見ていくこともある。	相模原市との連携は良く取れている。市の担当者の訪問もあり、ホームの活動状況を見学されてこともある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや拘束委員会がありカギをかけないケアの実践もおこなっている。	身体拘束についての委員会を設置し、マニュアルを整備し、身体拘束のない支援を行っている。玄関は、夜勤帯以外鍵は掛けない。外出される方には、職員が見守りを行っている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員への自覚を深める為にも入居者の方々が自分の家族だったら・・・又家族を入居させたいホームを目標にかかげる為のコミュニケーションをユニット会議でもっている。虐待が生まれる根拠を又虐待の原因をめばえることのないよう職員の毎日の申し送りノートもチェックしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状に於いても支払い能力低下又、支払いに関しての問題が有る入居者の方々には生活保護や成年後見人のことを家族と話している。又職員には両面からユニット会議の中で説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入所者に分かりやすく説明している。又疑問点があった場合は納得のいくまで説明をした上で署名、捺印をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や要望の窓口を重要事項説明書に明記されており、契約時にも説明している。また、家族の訪問時、家族会や運営推進会議で意見、要望を聞き運営に反映させている。	ご家族等の意見はご家族の面会や家族会、運営推進会議の際、苦情・相談窓口により、伺えるように体制をひき、運営に反映するよう努めている。ご利用者の意見は日常の支援により把握をするようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議、全体会議などで職員からの意見を吸い上げ社員会議で検討している。	毎月のユニット会議、全体会議で職員の意見を聴いている。リビング・ダイニングの椅子の交換、風呂場の背もたれ椅子、回転椅子など、職員の意見が反映されている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コミュニケーションを第一とし又、ユニット会議で職場環境改善などに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の教育は、現在人員にゆとりがないため充分とはいえないが、毎月のユニット会議時に勉強会を行い職員のスキルアップにつなげている。外部研修については極力参加できるよう努力している。参加した職員は報告書を提出し、ユニット会議で発表して内容を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のグループホーム連絡会は作られてないが、近隣のグループホーム3ヶ所とは常に連絡を取り、お互いに訪問して情報交換や相互交流をしている。他のグループホーム事業所と一緒にスプリンクラー設置補助金等について話し合いを行うなどしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には「入居事前面談」「入居者情報提供書」「ケアアセスメント」に基づきアセスメントをおこなっている。その後入居者や家族からの要望を聞き状況を十分に把握し課題を明らかにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式のアセスメントを行い、それに基づいて入居者別にサービス計画、生活援助計画を作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回での家族との要望などを含めた話し合い、又以後の家族会での意志疎通に努めている。又、入居者との行動言動に関しては職員間での情報共有しながら「その時」「その場所」で見合う支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者個々の状態をよく観察して、本人に合わせて支援している。日常生活の中で調理の手伝いや配膳、掃除、洗濯物たたみ散歩、レクリエーションなど積極的に行っている。食事会や家族会に親戚や友人を招くこともある。また、利用者からは編み物、歌、短歌など多くのことを教わっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問又家族会、イベント等の折には率先して相方の絆をつなげる潤滑油になるよう職員に対し指導している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会ノートをチェックしながら面会日より日にちのあいた家族には遊びにいらして頂けるよう連絡をし又「シンフォニーたより」を発行、送付し入居者の笑顔や行動をお知らせして常により関係をキープしている。	家族会は1回/3ヶ月実施している。ご利用者の暮らしぶりを載せた「シンフォニーだより」のお届けや、電話連絡によりご家族との関係は良い。ご家族との墓参り等、その方の要望に応じて支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	当ホームはイベントが多いのでその都度話題を共有し入居者同士の相互理解に職員が努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたあともご本人のその後を確認の上、新たとなる施設、病院へお伺いをし時折家族への連絡もしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者がその人らしく暮らし続けることが出来るように、一人ひとりの思いや暮らし方の意向をアセスメントや生活歴、家族からの情報、日常の会話、表情から汲み取るように努めている 重度の利用者には聞き取りの困難さはあるが根気よくコミュニケーションを取り把握するよう努力している。	日常の支援の中で、ご本人の意志や思い、ご家族からの情報を把握し、心身の状態はアセスメント記録シートに記録して把握に努めている。 ご利用者のニーズにあった支援が出来るようにコミュニケーションに努めている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室には、使い慣れたベットやたんす、椅子、鏡台など持ち込んでもらい、今までの生活と変わらない空間をこころがけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常のスケジュールとして買物、散歩、レクリエーションなどがあるが、入居者の希望を尊重し無理強いをしない。その人のペースに沿って自由に支えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時には、アセスメントを基に利用者、家族の要望を聞いて介護計画を作成している。継続時には「モニタリング・再アセスメント」、「ケアプラン評価表」を用いて評価と再アセスメントを基に毎月のカンファレンスで話し合い、医師のアドバイスや本人や家族の要望を入れて現状に即した介護計画を作成している。	「アセスメント記録シート」の記録とユニット会議、全体会議、医師の意見を聞いて、ご利用者のニーズにあった介護計画を作成し、介護やモニタリングを実施している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画は全員が参加するカンファレンスにおいて話し合わせ、アセスメントをもとに職員の気づきや意見を取り入れて作成されている。作成された計画はファイルして戸棚に入れているので職員はいつでも見ることができる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	内科医による訪問診療が毎月2回、歯科医による治療と口腔ケアの指導が毎週行われている。利用者の心身の変化や健康管理については協力医療機関の医師や看護師にいつでも相談できる体制がある。地域や商店街の方との交流やボランティアによる髪のカット、幼稚園、小学校、高等学校との交流を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現状では、本人や家族の要望に応じて全員が協力医による月2回の訪問診療を受けている。専門外の治療については医師による紹介、又は近隣の専門医の治療を受けるなど柔軟に対応している。	内科医の往診は1ユニット1回/月、ホームとして2回/月、医師、看護師が診えている。専門外の治療は、職員同行で外来診療に行っており、適切な医療が受けられるように支援している。また、1Fのデイサービスには看護師が3人いるので安心である。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護職員は勤務していない。又訪問看護も受けていないが毎月の訪問医師と看護師との連携をとり明確な情報を伝達している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合は、見舞いに行き、家族を交えて医療機関と早期退院の話し合いをおこなっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、入居時に現在ホームで対応できる範囲を説明している。入居時に特養の申し込みを促したり、重度化した場合には医師と相談してたの施設や病院を紹介したりして対応している。ユニット会議では重度化した利用者にとどこまで対応できるか話し合いをしている。	入居時の説明で、看取りは行わない。入浴、食事、歩行、トイレ介助の状況により、ご家族との話し合いをして、後の移行について（特養、病院）について責任を持った対応に努めている。ユニット会議では、あらゆるケースを想定して話し合いを行い研鑽している。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、職員は応急処置ができる。消防署の救急救命法の訓練も年2回受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	建物内には消火器、非難誘導灯を備えている。現在スプリンクラーを設置し年2回の消防訓練を消防署の指導と近隣の方の参加により実施している。また毎月1度避難訓練を行なっている。災害時の非常用食料や飲料水はユニットごとに3日分備蓄している。	消防署の指導、近隣の方の参加による避難訓練を2回/年実施している。ホームの避難訓練は毎月実施している。水、食料（缶詰、パック）の備蓄は3日分備蓄されている。スプリンクラー、自動通報装置は設置済みである。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法や情報の漏洩防止には、入社時の研修で説明している。利用者、家族とは「個人情報保護に関する同意書」を取り交わしている。職員は日々の生活の中で利用者のプライバシーを損ねないよう言葉かけや対応に充分配慮している。個人情報に関する書類は、施錠できる事務室の倉庫に保管している。	個人情報の保護は、入社時の教育、その後の研修で説明があり職員に理解されている。ご利用者の人格を尊重した言葉かけ、言葉遣いに配慮し、さり気ないトイレ誘導や人目の無い居室での失禁の処置等、プライバシーの確保に努めている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のお茶は好きな物を飲むようにしたり、歌を歌う時は曲を選んでもらう。買物では好きな物を自分で選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にホームのスケジュールはあるが、起床や食事は一人ひとりのペースを大切にし、ゆったりと生活している。散歩、外出、催しものへの参加なども一人ひとりの思いや状態に配慮しながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣服や外出時の化粧・身だしなみには提供したり、サポートしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者と一緒に食卓を囲み、会話を楽しみながら食事している。食事の準備や後片付けなど利用者はできることを分担して行っている。介助が必要な方や時間のかかる人は職員が支援し、食べこぼしなどをさりげなくサポートしている。	職員は入居者と一緒に食卓を囲み、会話を楽しみながら食事している。（観察で確認されている）食事のメニューは1週間程度をご利用者の希望を入れて予定表を作る配慮をしている。食材は毎日午後にご利用者と職員で買出しに行っている。食事の準備、調理、後片付けもご利用者が分担しながら手伝っている。外食も行い、楽しみを取り入れている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、入居者の要望も取り入れ、1週間ごとに作成している。入居者の体調や持病などにも配慮し医師の指導を受けて工夫している。訪問当日の献立の彩り、味付けや栄養バランスは申し分なく、入居者の1人も「この料理は美味しくて毎日の食事が非常に楽しみ」と話してくれた。食事や水分の摂取量は「食事、水分チェック表」に記入し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入居者に声かけし、誘導して歯磨きを支援している。最後に職員が口腔内をチェックし入れ歯は夜間に職員が洗浄している。又訪問歯科が定期的に診療し治療している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートを記入し一人ひとりの排泄パターンを把握している。間隔や兆候を見て声かけや誘導して、オムツの方もトイレで排泄できるよう支援している。	ご利用者の状態に応じてトイレでの排泄が出来るように支援している。また、排泄チェック表によりトイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行なっている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の献立には消火のよい物 果物・ヨーグルトなどを盛り込み又毎日の午前の散歩（荒天以外）も欠かさず行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ホームでは、午後から夕方にかけて利用者の希望やペースに合わせてゆったりと入浴できるように支援している。基本的には利用者の希望によって午前でも入浴できるよう配慮している。入浴しながらない方には無理強いせず間を置いたり声かけしたり、1階に併設されているデイサービスに岩風呂を勧めたりして柔軟に対応している。	入浴管理表があり、最低3回/週以上入ることにしている。基本的にはご利用者の希望により自由に入浴できるように配慮している。季節には、菖蒲湯、ゆず湯をご用意し、また、1階に併設されているデイサービスにある岩風呂を勧める等、柔軟に入浴を楽しめる支援を行なっている。このホームの利点でもある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜勤のケース記録の巡視記録で睡眠のパターンが把握されている。夜眠れない入居者には、お茶を飲んでお話をし安眠へ導いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品は統括責任者が1日分ごとに仕分けし、さらに朝・昼・夕の色分けしたケースに分けて保管している職員が確認して手渡しし、飲み込むまで見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者は日々の暮らしの中で掃除、洗濯ものたたみ、料理の手伝い、後片付けなど一人ひとりに合った役割に取り組めるように支援している。習字、折り紙、読書、新聞、和歌、歌の合唱、健康体操などを行い楽しみごとを見出せるよう工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の要望に応じて散歩、買物、外食に出かけたり、地域や商店街の催しものに参加したり、ホームの行事（ドライブ、季節の花見など）に出かけている。歩行困難な方は車椅子を使って外出している。	屋上に出ると相模平野のパノラマが一望でき、季節によりお茶会などの催しを行えるのは良いリフレッシュとなっている。毎日、午前近くに近くの鶴が丘第一公園、麻溝公園等への散歩に行き、午後は買い物に行く等、手厚い支援が垣間見られる。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として3万円設けてあり、入居者が好きな時に欲しい物をその中から購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をしっかり書ける方は皆無に等しいが電話に関しては要望があればその都度対応し又家族の希望で携帯を持っている方もいた。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内には、絵、写真、利用者の作品、行事の写真、小学校からのお礼の手紙、テレビ、ソファ、手作りのお雛様など飾られ、居心地よい空間となっている。ベランダには喫煙コーナーもある。採光を重視した建物となっており、室内は明るく、窓からは遠方の大山や富士山も望むことができる。	リビング・ダイニングには手作りのお雛様・季節に応じた飾り付け、ご利用者の作品や各行事の写真等が掲示されており、家庭的な雰囲気がとても良い。家具の配置も良く、採光の明るさや気温など、とても心地良い環境が整備されている。見晴らしがとても良い。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファと、分けて置かれたテーブルがあり、入居者が一人で過ごしたり、家族などの来訪の際に話す場となっている。屋上にはテーブル、椅子を置き、外を眺めながら自由に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、加湿器が備えられている。使い慣れたベッド、整理ダンス、鏡台、椅子や仏壇、ぬいぐるみ、家族の写真、化粧品などが持ち込まれ安心して過ごせるよう配慮されている。	各室には収納設備と加湿器が備え付けられた配慮がされている。その他の備品は、ご利用者が馴染みの家具や思い入れのある品々を持ち込んで居心地の良さを工夫し、安心して過ごせるよう配慮されている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室を間違える事もあるのでドアの入り口にはご本人の最新版の写真を貼ったり人それぞれに食事の準備（もやしのみげとり、さやえんどうのすじとり）の手伝いをして頂いたり又安全に関しては通路には物を置かず館内の随所に手すり、館内ミラーの設置をしている。		

事業所名	NPO法人グループホームシンフォニー
ユニット名	Bユニット

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、各ユニットの玄関、リビング、事務室に掲示し、またパンフレットやシンフォニーたよりも掲載して、いつでもどこでも目に付くようにしている。職員は入社時に説明を受け、会議、申し送りで唱和し確認している。日々のケアサービスの中でも話し合い、理念の共有に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や商店街の商栄会に加入し、地域や商店街の行事に出かけている。近隣の幼稚園、小学校、高等学校とも交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相模原市内の劇場グリーンホールでのダンシングチームの催しでは、入居者の方々が舞台上がり一緒にダンスするなどして参加している。利用者の理美容についてはボランティアの方が来て髪をカットしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月ごとに開催しており、ホームの活動状況、自己評価・外部評価についても報告している。懸案事項についても報告し、出席委員から助言をもらったり、方針や要望について話し合ったり、運営に反映するよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当窓口と情報交換やホームの現状について話している。運営方法について相談を受けたり、担当者がホームを訪れて活動状況を見ていくこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや拘束委員会があり、カギをかけないケアの実践もおこなっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員への自覚を深める為にも入居者の方々が自分の家族だったら・・・又家族を入居させたいホームを目標にかかげる為のコミュニケーションをユニット会議でもっている。虐待が生まれる根拠を又虐待の原因をめばえることのないよう職員の毎日の申し送りノートもチェックしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状に於いても支払い能力低下又、支払いに関しての問題が有る入居者の方々には生活保護や成年後見人のことを家族と話している。又職員には両面からユニット会議の中で説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入所者に分かりやすく説明している。又疑問点があった場合は納得のいくまで説明をした上で署名、捺印をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や要望の窓口を重要事項説明書に明記されており、契約時にも説明している。また、家族の訪問時、家族会や運営推進会議で意見、要望を聞き運営に反映させている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議、全体会議などで職員からの意見を吸い上げ社員会議で検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コミュニケーションを第一とし又、ユニット会議で職場環境改善などに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の教育は、現在人員にゆとりがないため充分とはいえないが、毎月のユニット会議時に勉強会を行い職員のスキルアップにつなげている。外部研修については極力参加できるよう努力している。参加した職員は報告書を提出し、ユニット会議で発表して内容を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のグループホーム連絡会は作られてないが、近隣のグループホーム3ヶ所とは常に連絡を取り、お互いに訪問して情報交換や相互交流をしている。他のグループホーム事業所と一緒にスプリンクラー設置補助金等について話し合いを行うなどしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には「入居事前面談」「入居者情報提供書」「ケアアセスメント」に基づきアセスメントをおこなっている。その後入居者や家族からの要望を聞き状況を十分に把握し課題を明らかにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式のアセスメントを行い、それに基づいて入居者別にサービス計画、生活援助計画を作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回での家族との要望などを含めた話し合い、又以後の家族会での意志疎通に努めている。又、入居者との行動言動に関しては職員間での情報共有しながら「その時」「その場所」で見合う支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者個々の状態をよく観察して、本人に合わせて支援している。日常生活の中で調理の手伝いや配膳、掃除、洗濯物たたみ散歩、レクリエーションなど積極的に行っている。食事会や家族会に親戚や友人を招くこともある。また、利用者からは編み物、歌、短歌など多くのことを教わっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問又家族会、イベント等の折には率先して相方の絆をつなげる潤滑油になるよう職員に対し指導している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会ノートをチェックしながら面会日より日にちのあいた家族には遊びにいらして頂けるよう連絡をし又「シンフォニーたより」を発行、送付し入居者の笑顔や行動をお知らせして常により関係をキープしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	当ホームはイベントが多いのでその都度話題を共有し入居者同士の相互理解に職員が努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたあともご本人のその後を確認の上、新たとなる施設、病院へお伺いをし時折家族への連絡もしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者がその人らしく暮らし続けることが出来るように、一人ひとりの思いや暮らし方の意向をアセスメントや生活歴、家族からの情報、日常の会話、表情から汲み取るように努めている 重度の利用者には聞き取りの困難さはあるが根気よくコミュニケーションを取り把握するよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室には、使い慣れたベットやたんす、椅子、鏡台など持ち込んでもらい、今までの生活と変わらない空間をこころがけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常のスケジュールとして買物、散歩、レクリエーションなどがあるが、入居者の希望を尊重し無理強いをしない。その人のペースに沿って自由に支えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時には、アセスメントを基に利用者、家族の要望を聞いて介護計画を作成している。継続時には「モニタリング・再アセスメント」、「ケアプラン評価表」を用いて評価と再アセスメントを基に毎月のカンファレンスで話し合い、医師のアドバイスや本人や家族の要望を入れて現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画は全員が参加するカンファレンスにおいて話し合われ、アセスメントをもとに職員の気づきや意見を取り入れて作成されている。作成された計画はファイルして戸棚に入れているので職員はいつでも見ることができる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	内科医による訪問診療が毎月2回、歯科医による治療と口腔ケアの指導が毎週行われている。利用者の心身の変化や健康管理については協力医療機関の医師や看護師にいつでも相談できる体制がある。地域や商店街の方との交流やボランティアによる髪のカット、幼稚園、小学校、高等学校との交流を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現状では、本人や家族の要望に応じて全員が協力医による月2回の訪問診療を受けている。専門外の治療については医師による紹介、又は近隣の専門医の治療を受けるなど柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護職員は勤務していない。又訪問看護も受けていないが毎月の訪問医師と看護師との連携をとり明確な情報を伝達している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した場合は、見舞いに行き、家族を交えて医療機関と早期退院の話し合いをおこなっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、入居時に現在ホームで対応できる範囲を説明している。入居時に特養の申し込みを促したり、重度化した場合には医師と相談してたの施設や病院を紹介したりして対応している。ユニット会議では重度化した利用者にとどこまで対応できるか話し合いをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、職員は応急処置ができる。消防署の救急救命法の訓練も年2回受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	建物内には消火器、非難誘導灯を備えている。現在スプリンクラーを設置し年2回の消防訓練を消防署の指導と近隣の方の参加により実施している。また毎月1度避難訓練を行なっている。災害時の非常用食料や飲料水はユニットごとに3日分備蓄している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法や情報の漏洩防止には、入社時の研修で説明している。利用者、家族とは「個人情報保護に関する同意書」を取り交わしている。職員は日々の生活の中で利用者のプライバシーを損ねないよう言葉かけや対応に充分配慮している。個人情報に関する書類は、施錠できる事務室の倉庫に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のお茶は好きな物を飲むようにしたり、歌を歌う時は曲を選んでもらう。買物では好きな物を自分で選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にホームのスケジュールはあるが、起床や食事は一人ひとりのペースを大切に、ゆったりと生活している。散歩、外出、催しものへの参加なども一人ひとりの思いや状態に配慮しながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣服や外出時の化粧・身だしなみには提供したり、サポートしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者と一緒に食卓を囲み、会話を楽しみながら食事している。食事の準備や後片付けなど利用者はできることを分担して行っている。介助が必要な方や時間のかかる人は職員が支援し、食べこぼしなどをさりげなくサポートしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、入居者の要望も取り入れ、1週間ごとに作成している。入居者の体調や持病などにも配慮し医師の指導を受けて工夫している。訪問当日の献立の彩り、味付けや栄養バランスは申し分なく、入居者の1人も「この料理は美味しくて毎日の食事が非常に楽しみ」と話してくれた。食事や水分の摂取量は「食事、水分チェック表」に記入し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入居者に声かけし、誘導して歯磨きを支援している。最後に職員が口腔内をチェックし入れ歯は夜間に職員が洗浄している。又訪問歯科が定期的に診療し治療している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートを記入し一人ひとりの排泄パターンを把握している。間隔や兆候を見て声かけや誘導して、オムツの方もトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の献立には消火のよい物 果物・ヨーグルトなどを盛り込み又毎日の午前の散歩（荒天以外）も欠かさず行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ホームでは、午後から夕方にかけて利用者の希望やペースに合わせてゆったりと入浴できるように支援している。基本的には利用者の希望によって午前でも入浴できるよう配慮している。入浴しながらない方には無理強いせず間を置いたり声かけしたり、1階に併設されているデイサービスに岩風呂を勧めたりして柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜勤のケース記録の巡視記録で睡眠のパターンが把握されている。夜眠れない入居者には、お茶を飲んでお話をし安眠へ導いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品は統括責任者が1日分ごとに仕分けし、さらに朝・昼・夕の色分けしたケースに分けて保管している職員が確認して手渡しし、飲み込むまで見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者は日々の暮らしの中で掃除、洗濯ものたたみ、料理の手伝い、後片付けなど一人ひとりに合った役割に取り組めるように支援している。習字、折り紙、読書、新聞、和歌、歌の合唱、健康体操などを行い楽しみごとを見出せるよう工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の要望に応じて散歩、買物、外食に出かけたり、地域や商店街の催しものに参加したり、ホームの行事（ドライブ、季節の花見など）に出かけている。歩行困難な方は車椅子を使って外出している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として3万円設けてあり、入居者が好きな時に欲しい物をその中から購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をしっかり書ける方は皆無に等しいが電話に関しては要望があればその都度対応し又家族の希望で携帯を持っている方もいた。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内には、絵、写真、利用者の作品、行事の写真、小学校からのお礼の手紙、テレビ、ソファ、手作りのお雛様など飾られ、居心地よい空間となっている。ベランダには喫煙コーナーもある。採光を重視した建物となっており、室内は明るく、窓からは遠方の大山や富士山も望むことができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファと、分けて置かれたテーブルがあり、入居者が一人で過ごしたり、家族などの来訪の際に話す場となっている。屋上にはテーブル、椅子を置き、外を眺めながら自由に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、加湿器が備えられている。使い慣れたベット、整理ダンス、テレビ、鏡台、椅子や仏壇、ぬいぐるみ、家族の写真、化粧品などが持ち込まれ安心して過ごせるよう配慮されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室を間違える事もあるのでドアの入り口にはご本人の最新版の写真を貼ったり人それぞれに食事の準備（もやしのひげとり、さやえんどうのすじとり）の手伝いをして頂いたり又安全に関しては通路には物を置かず館内の随所に手すり、館内ミラーの設置をしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所 NPO法人

グループホーム シンフォニー

作成日

平成22年3月29日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員の勉強会は日頃、対応に困る応急処置など 例：夜間の急変で救急車が到着までに何ができるか？又、日常において入居者の疥癬、白癬等の的確な処置等	職員全員が内容に応じた応急処置ができるようになる。	現在、デイサービスが併設しナースが毎日勤務しているため、ナースによる職員研修指導を毎月1回行っている。	通念を通して勉強するので、期間の定め無し
2	2	新人職員や会話の苦手な職員の入居者とのコミュニケーションをいかに円滑また聴き上手になれるか	高齢者との会話をしっかりと受け止める事ができる。	サークル勉強会を月2回責任者を中心に開催	上記同様
					2010/4/19

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。